

大栄システム株式会社（情報通信業）

1991（平成3）年、鹿嶋市に有限会社大栄システムとして設立。1995（平成7）年に大栄システム株式会社へと社名変更。ビジネスアプリケーション開発やシステム運用・管理、コンサルティングなどの事業を展開している。企業理念に「夢のある働きがいのある生き生きとした楽しい会社」を掲げ、健康経営にも力を注ぐ。従業員は88名（健康経営優良法人認定当時）。

【平成28年2月】

協会けんぽ茨城支部の健康づくり推進事業所として認定される。

【平成30年2月】

経済産業省・日本健康会議による顕彰制度「健康経営優良法人2018（中小規模法人部門）」において認定法人となる。



大森社長

■ IT業界の長時間労働・健康面を改善したい

IT業界は就労時間が長く、健康診断においても有所見者が多い傾向があります。自社では10年程前から大森社長や管理職が主体となって、長時間労働対策に取り組み始めました。中でも、従業員の残業時間、業務量の把握に努め、月45時間を超えそうな従業員と管理職が面談をするようにしています。



健康面では、健康診断で要検査になった従業員に病院への受診を勧奨し、受診結果の報告もするよう、就業規則にも定めています。実際の数値にも表れており、2009（平成21）年では有所見者が68.4%いましたが、2017（平成29）年には

■ 禁煙に力を入れています

40.5%まで減りました。また、安全衛生委員会の場でも産業医との面談を活用し、積極的に従業員の健康管理の意識を高めるようにしています。

健康の要素である食事・睡眠・運動・ストレスにタバコが密接に関わっているため、禁煙に熱心に取り組んでいます。自社で調べたところ、有所見者の喫煙率が高いことも分かりました。

就業時間中の禁煙はもちろんのこと、禁煙宣言の制度を設け、禁煙達成者には表彰も行っています。宣言者には禁煙サポーターがおり、周囲も応援するようにしています。禁煙に取り組む人が増えると、周囲にも



連鎖反応で禁煙が広がっている印象ですね。他にも、禁煙外来の費用補助も行っています。

実際に喫煙者は8年前34.3%から現在では23%と減っており、禁煙を達成した従業員の中には家族から喜ばれているという報告もありました。



左：畠山取締役、右：浅井総務課長

■ レクリエーションも活発です

スポーツ大会（ドッジビーなど）も行っており、社員のコミュニケーションの場にもなっています。やり始めると、皆さん本気になってますね。他には、年2回のゴルフコンペも開催しています。

また、全社員でウォークラリーにも取り組んでいて、万歩計を携帯していますよ。半年に一回集計し、最多歩数者などを表彰しています。日々の健康づくりにつながるような運動の機会を増やし、楽しみながら取り組めるレクリエーションにしています。



万歩計を取り出し見せてくださいました

健康経営優良法人の認定は通過点

大森社長曰く「健康経営優良法人に認定されましたが、健康経営の取り組みはまだ発展途上。試行錯誤をしながら健康経営に取り組みたいです。」とのこと。「今後は有給取得率を上げたい。積極的に休暇を取得できる環境を整えていきたい。」と次の目標も語られました。

また、人材採用時に若い人へ向けた健康経営の取り組みアピール、厚生労働省・茨城労働局のユースエール認定への応募や、社内では健康川柳の募集・表彰など様々な内容の健康経営に取り組まれる予定。健康経営優良法人の認定を通過点として、次世代に健康経営を繋いでいけることでしょう。

